

2021年室内環境学会学術大会 大会長技術賞 受賞の言葉

B-25 在宅勤務の快適性評価：オフィス勤務における
快適性との比較

○栗原幸大¹⁾、弓削政郎¹⁾、太田幸治¹⁾、杉本匡史²⁾、張帆²⁾、長田典子²⁾

1)三菱電機株式会社 2)関西学院大学

このたび、室内環境学会2021年関西大会で発表いたしました“在宅勤務の快適性評価：オフィス勤務における快適性との比較”にて大会長技術賞を賜りましたこと、誠に光栄に存じます。

空調冷暖業界においては、ZEBに代表される省エネ向上に加え、建物内の人の知的生産性の向上や健康増進などを目的とする快適性追求に対する注目が高まっています。さらに、COVID-19の感染拡大防止のため労働スタイルは大きく変化しており、多くの企業が在宅勤務を導入することで、これまでは居住空間であった住居が在宅勤務のオフィスとしての機能を併せ持つようになりました。したがって、在宅勤務環境における快適性及び知的生産性に関して量的、質的な変化が生じていると考えられます。

このような背景のもと、本研究は感性工学に基づく経験サンプリング法及び評価グリッド法を用いた独自の手法により、オフィス及び在宅勤務での快適性の全体像について比較し、両者の快適性の認知構造が類似しており、主観的快適性の向上には温熱や音要因だけではなく、内的要因が重要であることが示唆されたこと、在宅勤務では作業環境に対する不満やカジュアルな仕事のやり方、家族といった在宅勤務独自の項目が挙げられたこと、等を報告いたしました。本研究の結果から、より快適な空間を形成する上で個人差や、勤務環境によって生じる要因が、その空間の各勤務者にどのような影響を与えるかを考慮することが重要と考えられます。これらは困難な課題ではありますが、快適性及び知的生産性向上のための研究を推進していき、得られた結果は今後の室内環境学会で報告したいと考えております。

最後になりましたが、本研究の一部を支援していただいたJSTセンター・オブ・イノベーション(COI)プログラムの関係者の皆様には感謝申し上げます。そして、関西学院大学の長田先生はじめ、杉本先生、張先生と協力し合い得られた本成果を、このような形で評価して下さった本学会と関係者の皆様には深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

……著者データとプロフィール……



栗原幸大
(くりはら・こうた)
三菱電機株式会社・
先端技術総合研究所
専任



弓削政郎
(ゆげ・せいろう)
三菱電機株式会社・
先端技術総合研究所
専任、博士(工学)



太田幸治
(おた・こうじ)
三菱電機株式会社・
先端技術総合研究所
グループマネージャ



杉本匡史
(すぎもと・まさし)
関西学院大学
工学部
情報工学課程
特任講師、
博士(教育学)



張帆
(ちよう・はん)
関西学院大学
工学部
情報工学課程
特任助教、
博士(学術)



長田典子
(ながた・のりこ)
関西学院大学
工学部
情報工学課程
教授、
博士(工学)